

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。  
架け橋期の保育・教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

6月26日に行われた幼保小連携研修全体会では、元文部科学省初等中等教育局主任視学官の嶋野道弘先生にご講演をいただきました。架け橋期のコンセプトや取組について、子どもを真ん中に進めていくことを、様々な事例を通してお話いただきました。皆さんと共有し、横浜の子どもたちのためにこれからの取組に生かしていきたいと思いますので、拡大版でお伝えします。

## 嶋野道弘先生のご講演より(1)

テーマ “やってみたい・やりたい”を伸ばす保育・教育  
～自己発揮と子どもの育ち～ 「自己発揮」



♥参加者の感想より  
子どもの「やってみたい」「やりたい」という思いを育てるためには、安心して自己を発揮できる環境と、大人の受容的な関わりが土台になることを改めて学びました(小)

子どもが小学校に行く前の幼稚園、保育園で自己発揮することが自信につながり、小学校でも安心して過ごすことができる大切さを学ぶことができました。(保)

### 「架け橋期」のコンセプト

- ・安心して生活する
- ・のびのびと自己を発揮する
- ・自分の力でやってみようとする

### 「自己発揮」とは、

- ・集団や環境の中で、自分の感情、欲求、能力を言葉や行動で主体的に表現すること

安心

安心して自分を出せる環境です。それは、やりたい、という意欲の育ち、自己肯定感の向上、他者理解につながっています。

大人

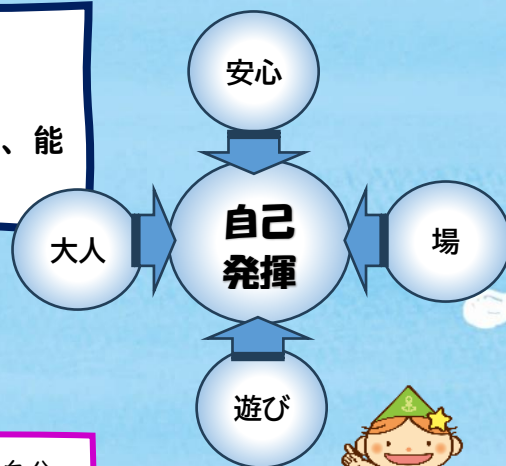
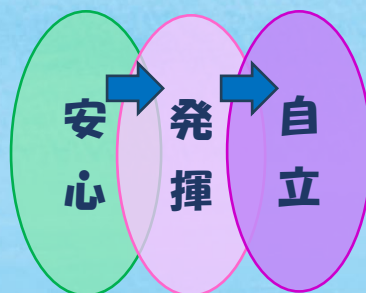
信頼できる大人の存在。ありのままの自分が受容される経験が土台になります。

場

やりたい！と心が動く場や環境が自己発揮を促します。環境を構成するのは、自然環境、物的環境、空間、時間などがあります。

遊び

主体的な遊びの中で子どもたちは自己を発揮します。自分の好きなことや得意なことに夢中になる姿がそこにはあります。



自己発揮につながる大切な要素を教えてくださいました。

